

平成 29 年度 東京都内湾水生生物調査 9 月成魚調査 速報

●実施状況

9 月 13 日の成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。調査地点 4 地点のうち、St. 22、St. 25 の底層は貧酸素状態で魚類は確認できなかった。これに対し、St. 35 は貧酸素状態が若干回復、St. 10 では貧酸素は見られず、魚類が確認された。しかし、5 月の調査と比較し個体数・種類数ともに減少した。調査当日は小潮で、満潮 10 時 10 分、干潮 15 時 13 分（東京都港湾局のデータ）であった。調査時間帯の波高は、0.1m から 0.2m。また、St. 10、St. 22、St. 25 は赤潮気味であった。

調査地点	St. 10		St. 22		St. 25		St. 35	
調査時間帯	14:55~15:35		12:50~14:40		11:50~12:20		10:10~11:10	
水深(m)	8.5		14.9		16.6		26.5	
天候	晴		晴		晴		晴	
気温	27.3		28.6		30.2		28.2	
風向/風速(m/s)	E/3.6		E/4.4		NE/0.9		NE/1.5	
波浪(m)	0.2		0.2		0.1		0.2	
水色	茶色		緑褐色		緑褐色		暗灰黄緑色	
透明度(m)	1.6		1.5		1.4		2.0	
観測層	上層	底層	上層	底層	上層	底層	上層	底層
水温(°C)	25.9	24.4	26.7	23.0	26.2	21.8	25.6	21.4
塩分	28.0	29.9	28.3	31.6	22.6	32.1	25.7	33.4
pH	8.7	8.5	8.7	8.2	8.6	8.0	8.3	8.1
DO(mg/L)	11.3	5.7	12.1	1.5	10.6	0.2	8.3	2.6
臭気	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し
備考	赤潮気味		赤潮気味 底層は貧酸素		赤潮気味 底層は貧酸素			

観測層：上層(0m)・底層(海底面-1m)

●主な出現種等(速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	St. 10	St. 22	St. 25	St. 35
魚種 (多い順 ^注)	ツバクロエイ (r)	※マアジ (r)	漁獲無し	ハタタテヌメリ (r)
		※カタクチイワシ (r)		カワハギ (r)
魚類以外	イソギンチャク目 (c)	ホンビノスガイ (r)	マンハッタンボヤ (r)	マンハッタンボヤ (r)
	ホンビノスガイ (+)			
備考		3 回曳網を実施		2 回曳網を実施

※大量なクラゲに混じって捕獲されたため、参考記録として表記した。

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

St. 10 調査地点位置

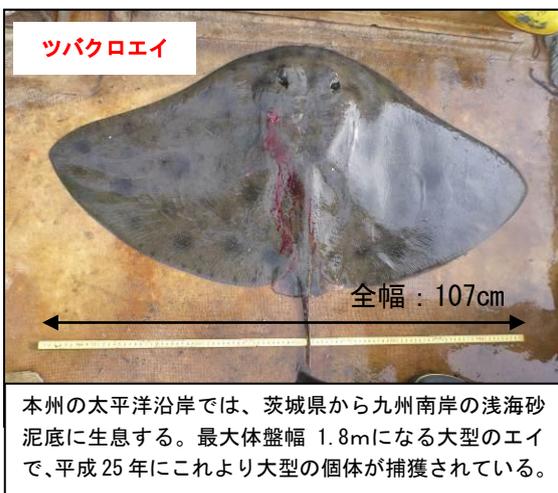
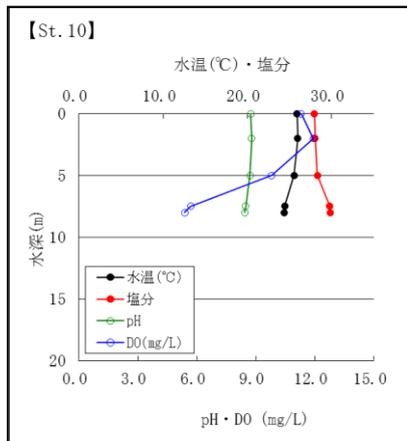


ディズニーランドの岸寄りに位置する。ツバクロエイのほか、ホンビノスガイ、イソギンチャク目等が確認された。付近は表層の溶存酸素量が多く、赤潮気味であった。一方、底層の酸素濃度は、5月調査時は貧酸素状態に近かったが、今回の調査では貧酸素は見られなかった。

採取試料



水質の状況



本州の太平洋沿岸では、茨城県から九州南岸の浅海砂泥底に生息する。最大体盤幅 1.8mになる大型のエイで、平成 25 年にこれより大型の個体が捕獲されている。



今では東京湾にすっかり定着しているが、北米原産の外来の二枚貝である。貧酸素にも比較的強い耐性を有する。例年、本調査地点で捕獲されている。



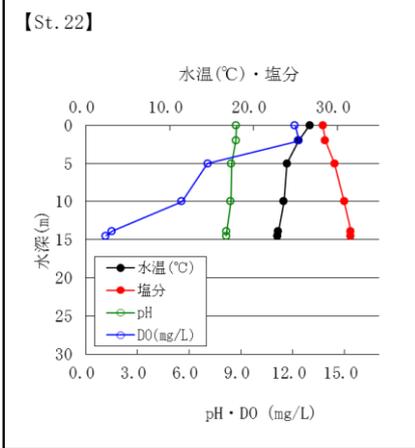
イソギンチャクの仲間であるが、種は不明である。ホンビノスガイの殻等に付着していた。

St. 22

調査地点位置



水質の状況



ディズニーランドの約3km沖合に位置する。当日は3回底曳を実施した。1回目および2回目は、大量なミズクラゲに混じてマアジとカタクチイワシが確認された。3回目では、ホンビノスガイのみで、魚類は確認できなかった。付近は表層の溶存酸素量が多く、赤潮気味であった。一方、底層は溶存酸素量が少なく5月調査時同様に貧酸素状態であった。

採取試料



※ クラゲの大量入網のためやり直しとなった、1回目、2回目の曳網時に捕獲されたもの。主に、表層・中層を利用する魚類であり、網の上げ下ろし時に入網した可能性もある。参考記録。

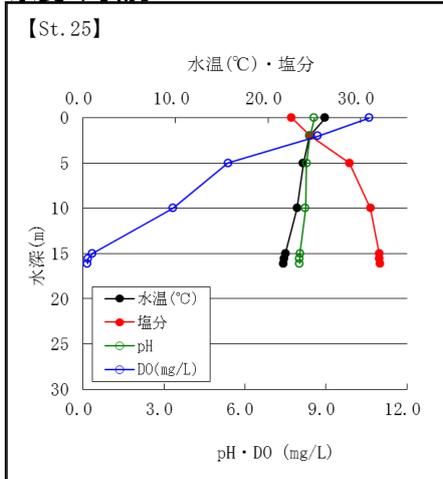
St. 25

調査地点位置



羽田空港の北東に位置する。生物はマンハッタンボヤのみで、魚類は確認できなかった。付近は表層の溶存酸素量が多く、赤潮気味であった。一方、底層は5月調査時よりも溶存酸素量が少なく、貧酸素状態であった。

水質の状況



採取試料



名前の通り、北米東海岸原産の外来移入種。透明～黄褐色の被囊を持ち、全体に球形に近い。最大直径4cmほどになる。



内湾の砂泥底に生息するが、確認されたものは殻長2～3cmの殻のみであった。夏季の貧酸素水塊によりへい死したものと考えられる。



1970年代後半に国内で発見された、オセアニア地方原産の移入種で、ムラサキイガイに似るが、殻のふくらみが強くしゃくれた形をしている。最大殻長4cm程度。

St. 35

調査地点位置



東京湾横断道の川崎人工島（風の塔）の北東に位置する。カワハギ、ハタタテヌメリのほか、マンハッタンボヤ等が確認された。下層は溶存酸素量が少なく、貧酸素状態に近かった。

採取試料



水質の状況

